

英国のカントリーライフ

k.y

娘が英国に住んで10年になります。結婚、就職・転職、何度かの引っ越しもあって、我々も何度か訪ねる機会がありました。その間、英国の庶民生活を体験したり、近郊への旅行などで歴史・文化遺産、自然などを肌で感じることができました。かつての貴族社会、大英帝国の栄光などの遺産が English Heritage (マナーハウス・庭園・古城・教会・街並みなど)として多数保存されています。3度目の引っ越しで移り住んだ町に我々は一ヶ月ばかり滞在しましたので、体験したことを報告します。

娘夫妻がロンドンから約150km北にある小さな町(ダベントリ 2万5千人、周辺の村々を合わせて7万人ほど)に住んでいます。町を一步でると緩やかな起伏が続き、麦畑・牧場・森が広がりその中に村々が点在しています。

我が国のように直交する道路が少なく、ラウンドアバウトと称する信号のない交差点に道路が幾つも集まっており間違えるととんでもないところへ行ってしまう。村々にある地区教会とパブが人の集まる場となっています。



麦畑のフットパスを行く

村々をつなぐフットパスが沢山あり(乗馬道もある!)麦畑や牧場の中も自由に通り抜けられます。又英国全体に張り巡らされた運河が近くを通っており、水門で水位を上下させながら(作業は手動)ナローボートがゆっくりと進んでいきます。

運河沿いの散策路では愛犬を連れて人達にも出会うし、行き交うボートの人達とも挨拶を交わしながら散策を楽しんでいます。かつては水運としての動脈であった運河が、今ではスローライフのシンボルのようになっています。



運河を行くナローボート

車も修理工場が近くにないので、必要な部品を購入して自ら修理を行い、車検にも合格!すると言った具合です。

亭主の仕事は家や車のメンテ・庭いじり・2週間に一度の買い出し・家族と一緒に愛犬をつれての散策・・・気晴らしにスポーツクラブで汗を流し、パブでちょっと一杯。

ダベントリは新しい町ですので若い世代も多いですが、ロンドンや大都市には住みたくないようです。彼らは車で一時間以内でいける町や郊外にある職場へ通い、住まいは煉瓦造2階建て、庭・車庫(2台)付きが平均的です。娘夫婦も双方の職場の真ん中くらいに位置するこの町に2年前に移り住みました。周囲の古くからある村にはリタイヤ組が数百年も前に建てられた石造の家を購入して悠々自適を決め込んでいる人もいます。介護が必要になったり寝たきりになった場合はどうなるのかな?

滞在中、タウンセンターへ食料などの買い物に出かけたり、2万5千分の一の地図を見ながら周辺の村へサイクリングやウォーキング、クルマで周辺の古城やマナーハウスなどを訪ねました。ダイアナ王妃が生まれたスペンサー家のマナーハウス(敷地が1.8km四方もある!)が15kmほどのところにありましたので、自転車で訪ねたり、居住者が200人ほどの古い集落 Asyby などの村々を訪ねました。



Asyby 村 17 世紀の民家

七月の上旬でしたが気温は20度前後で湿度も低く、何よりも蚊がいないのが最高です！夜は9時になってもまだ明るい(北緯52度 サハリンの北部ほどの位置)ので行動できる時間がとても長いです。見知らぬ土地を歩くのは緊張感が伴い道に迷ったり多くのサプライズや失敗もありましたが、有意義な体験・見聞の一ヶ月でした。

いくつか、見聞・体験した事をお話します。

1、引っ越しの仕組み(家を買換える)

今回、娘夫婦は家を買換えました。ラドバーン方式(歩車道分離で住宅ゾーンに入ると車は行き止まりとなる)で作られた戸建住居に「SALE」の掲げられた売り家があり、気に入ったのを見つけると、弁護士(日本でいう宅地建物取引のレベルの弁護士)に相談して条件を決めます。今まで住んでいた家にも買い手がついて、同じ日にいっせいに引越しをします。今回は4家族が順次大きな家へ、環境の良い、より高級な家へ引っ越しました。これを「チェーン」と言うそうです。最終的には、裕福な人はリタイアしてから、田舎で4~500年建ち続けている広い庭付き石造の住宅に住んで、悠々とガーデニングと家の維持管理に励むそうです。立地によりますが、夫婦は子供達が独立していくと空き部屋をB.B(ベッド+朝食)として活用したりしています。営々として手入れてきた素敵な食器・家具調度・庭園などを披露しています。コッツウォルズや湖水地方には多くあります。

我々もウェールズ方面への旅行でこのようなB.Bに泊まりました。チェスター郊外のB.B(持ち主が牧場主なので、牧場内の住まい。窓から乳牛が草を食んでいるのが見える)とスノードン国立公園内の村のB.Bに泊まりましたが、花いっぱいガーデンとインテリア、食器類もすばらしいヤドでした。本宅も石造の2階建てで娘が泊まり、我々は庭の中にある別棟(以前は物置かな?)に泊まりました。一人当たり30ポンドは上等のほうで、20ポンド~10ポンドくらい)



石造りのB.B

2、パブでの飲酒

地方へ行けば小さな集落がぽつんぽつんとあります。夕方(といっても21時ぐらいまで明るいですが)になると、どこからともなく、どこかの村にあるパブに集まってきます。そこでビール、ワイン、ウイスキーなどを飲んで、食べ、だべっています。そんなに沢山飲まないで仲間と会話や雰囲気を楽しんでいます。でも飲酒運転の規制は？ビールならば1パイント(約550CC)までは飲んでも良いことになっているとか！自己責任と、アルコールに強い国民性とパトカーは田舎では事故現場以外には見られませんので、それで良いのでしょうか！

ところ変われば風土も文化も違い、書きたいことも幾つかありますが次ぎの機会とします。